



2019年7月20日～2019年7月26日

2019年7月29日

先週の回顧

ブラジル・レアルは、対米ドルでは下落、対円では概ね横ばいで推移しました。また、2年国債金利は低下しました。ブラジル議会の休会によって年金改革の進展が見られないため、ブラジル為替相場は外部要因に左右される展開となりました。米国の債務上限引き上げ合意や米中通商交渉の進展期待などによって米ドル高が進行したことが、ブラジル・レアルの下落要因となりました。

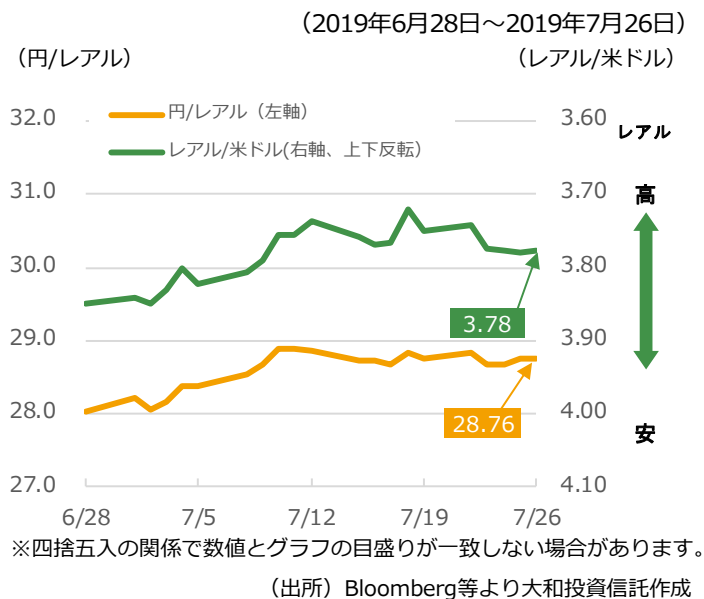
経済指標に関しては、7月のインフレ率（IPCA-15）などが発表されました。発表されたインフレ率が前月・前年比ともに市場予想を下回ったことで、中央銀行が金融緩和に動くとの見方が強まり、金利低下を後押ししました。

今週の見通し

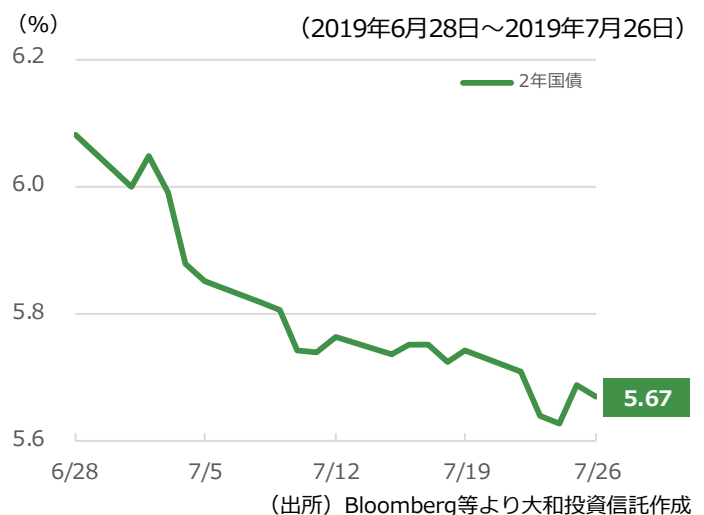
今週は鉱工業生産や製造業PMI（購買担当者指数）などの経済指標の発表が予定されています。また、ブラジル中央銀行から政策金利の発表が予定されており、0.25%～0.5%の引き下げが行われると予想されています。

議会の休会によって年金改革の進展が見られないため、引き続き外部要因に左右されやすい展開になると考えます。特に今週は米国でFOMC（米国連邦公開市場委員会）が予定されており、その内容次第では金融緩和期待が剥落しリスク回避の動きからブラジル・レアルが売られる可能性もあり、注意が必要です。

ブラジル・レアル 為替推移



ブラジル 金利推移



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。